

疫学情報 2018 年 10 月 3 日分

<https://gendai.ismedia.jp/articles/-/57606>

築地市場にいる 1 万匹のネズミたちが、閉鎖後一気に向かう先（現代ビジネス）

<https://www.niid.go.jp/niid/images/epi/rubella/180919/rubella180919.pdf>

2018 年第 1～37 週の風疹患者累積報告数は 642 人となり(図 1)、第 36 週までの累積報告数 496 人から 146 人増加した(図 2-1, 2-2)。2018 年は第 35 週時点で 2008～2011 年及び 2014～2017 年の年間累積報告数を超え、2008 年の全数届出開始以降では、2013 年、2012 年に次いで 3 番目に多い報告数となった(図 3)。

過去には 2013 年に 14,344 人の患者が報告され、この流行に関連した先天性風疹症候群が 45 人確認されている(図 3)。

「風しんに関する特定感染症予防指針（厚生労働省告示第百二十二号：平成 26 年 3 月 28 日）」では、「早期に先天性風疹症候群の発生をなくすとともに、平成 32 年度までに風疹の排除を達成すること」を目標としている。先天性風疹症候群の発生を防ぐためには、妊婦への感染を防止することが重要であり、妊娠出産年齢の女性及び妊婦の周囲の者のうち感受性者を減少させる必要がある。また、風疹の感染拡大を防止するためには、30～50 代の男性に蓄積した感受性者を減少させる必要がある。

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/id/1558-disease-based/a/hepatitis/hepatitis-a/idsc/idwr-sokuhou/8355-hepa-181002.html>

2012 年第 1 週から 2018 年第 36 週までの感染症発生動向調査における A 型肝炎の報告状況

国立感染症研究所 感染症疫学センター

2018 年 9 月 13 日現在

(掲載日：2018 年 10 月 02 日)

感染症発生動向調査において、2018 年第 2 週以降の A 型肝炎の増加傾向が観察されていることから、発生動向のまとめについて、第 36 週（9 月 3 日～9 月 9 日）までに更新された情報における概要を記述する。A 型肝炎の感染経路は食事等の経口感染の他に、性的接触があり、特に 2018 年は男性の同性間性的接触による感染が増加している。

【概要】

1. 2012 年第 1 週から 2018 年第 36 週までの発生動向

2012 年から 2017 年までの感染症発生動向調査における A 型肝炎の報告数は、全国的な流行が見られた 2014 年（433 例）を除き（参考 1）、年間約 100～300 例で推移した。

一方、2018 年は第 36 週時点で 724 例が報告され、第 2 週以降ベースライン*を超え、第 6 週以降は閾値（+2SD[標準偏差]）を超えて推移している。なお、東京都、神奈川県、大阪府などの都市部を中心に国内の複数地域より患者の報告がみられる。

*ベースライン：2014 年を除く 2012～2017 年の同一診断週及びその前後 2 週の移動平均

2. 2015 年第 1 週～2018 年第 36 週の性・年齢分布

2018 年第 1 週から第 36 週まで（以下、2018 年）に診断・報告されたのは 724 例で、前回情報（第 33 週まで）より 59 例増加した。724 例の年齢中央値は 37 歳[範囲:2-85 歳,四分位範囲:29-46 歳]で、2015

～2017年（以下、過去）の報告798例（年齢中央値44歳[範囲：0-99歳,四分位範囲:31-59歳]）と比較し低下していた。2018年の男女別年齢中央値は男性が37歳、女性が45歳であった。性別は2018年の男性の割合（91%）が過去の報告（61%）と比較して高かった。

3. 2015年第1週～2018年第36週の感染源・感染経路

推定される感染経路は2018年の報告では、経口感染の割合（37%）が過去の報告（74%）と比較して低く、性的接触（52%）が過去の報告（4%）と比較して高い割合であった。特に、男性における性的接触の割合が（57%）で、過去の報告（5%）と比較して高く、女性における性的接触の割合（4%）は、過去（1%）と比較して大きな変化はなかった。男性で性的接触により感染した人のうち、2018年の同性間性的接触の報告数（327人）は過去の報告（2015年～2017年の累積数：17人）と比べて多かった。